

# 日本海周辺クロマグロ調査

(水産資源調査・評価推進委託事業(国際水産資源))

井口隆暉・寺戸稔貴・森脇和也・金元保之<sup>1</sup>・三浦健太郎<sup>1</sup>

## 1. 目的

日本海周辺海域に分布するクロマグロの資源評価のために必要な情報収集を行う。

## 2. 方法

### (1) クロマグロ仔魚採集調査

産卵場推定のため試験船「島根丸」によりクロマグロ仔魚の採集を行った。採集には直径 2.0 m のリングネットを使用し、船速 2.0 ノットで 10 分間の表層曳きを実施した。調査期間は 2023 年(令和 5 年) 7 月 25 日~26 日、調査海域は隠岐諸島西側の 12 点とした(添付資料「2023 年度クロマグロ調査結果」(以下同じ) 図 1)。

### (2) リアルタイム漁海況情報収集調査

クロマグロ当歳魚の加入状況を把握するため、隠岐諸島島前地域(西ノ島町、海士町、知夫村)において養殖用クロマグロ種苗を採捕するひき縄釣漁船に、データ転送機能付き GPS データロガー、漁獲情報入力用テンキー、並びに水温計を設置した。本機器により、当歳魚の漁獲尾数、漁場位置および表層水温をリアルタイムで収集した。

### (3) クロマグロ当歳魚標識放流調査

試験船「やそしま」により、ひき縄釣を行い、クロマグロの当歳魚を採捕した。採捕したクロマグロは、直ちに尾叉長の測定を行った後、ダートタグで標識放流した。調査時の漁具、漁法および漁場については、同時期における隠岐諸島島前地域のひき縄釣漁業者と同様とした。

### (4) 漁獲実態調査

市場で水揚げされたクロマグロの尾叉長測定を実施した。また、マグロ類およびカジキ類の漁獲統計資料を収集し整理した。一箱あたりの入数が分からないデータについては、漁業協同組合へ聞き取り調査を行い、漁獲尾数を推定した。

## 3. 結果

### (1) クロマグロ仔魚採集調査

(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所(以下、水産機構資源研)へサンプルを送付し、仔魚採集尾数を解析中である。

### (2) リアルタイム漁海況情報収集調査

水産機構資源研と共同で GPS データロガーを運用し、2023 年 9 月~12 月に隠岐諸島島前地域のひき縄釣漁船(計 17 隻)からデータを取得した。本調査によって、クロマグロ当歳魚の漁獲情報をもとに、加入状況について把握がなされた。

### (3) クロマグロ当歳魚標識放流調査

2023 年 10~11 月に隠岐諸島周辺で調査を計 2 回行った(添付資料図 2)。採捕した当歳魚 81 尾の尾叉長組成は 315~485 mm の範囲であった。そのうち 74 尾は尾叉長測定後に標識放流した(添付資料表 1)。また、11 月 14 日に標識放流した当歳魚 1 尾が 11 月 24 日に京都府の定置漁業により再捕された。再捕された当歳魚の尾叉長は放流時が 390 mm、再捕時が 395 mm であった。

### (4) 漁獲実態調査

浜田市場で水揚げされた漁獲物の尾叉長測定を計 5 回実施した。測定尾数は計 50 尾を測定し、尾叉長組成は 342~640 mm であった(添付資料表 2)。尾叉長測定の結果および漁獲統計資料は、日本エヌ・ユー・エス株式会社へ報告した。

## 4. 成果

水産機構資源研、民間企業および関係府県の水産研究機関と協力して、クロマグロの資源評価を行った。なお、当県の研究結果は、大社湾漁業振興基金講演・研修会、隠岐島ヨコワ釣り連絡会、調査船調査報告会、現場実態調査(まぐろ・かじき類及びさめ類)年度末打合せで報告した。

<sup>1</sup> 隠岐支庁農林水産局